

< 検査内容変更のお知らせ >

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。
このたび、下記の項目におきまして、検査内容の一部を変更させていただきますのでご案内申し上げます。
誠に勝手ではございますが、弊社事情ご賢察のうえご了承の程お願い申し上げます。

敬具

《変更内容》

記

実施日 平成28年4月1日（金）受付分より

項目コード	項目名	変更箇所	新	現	備考	検査案内記載頁
001	総蛋白（TP）	検査方法	ビューレット法 [和光純薬工業株式会社]	ビューレット法 [和光純薬工業株式会社]	共存物質の影響が少ない試薬へ変更	35
159	アルブミン（Alb）	検査方法	BCP改良法 [和光純薬工業株式会社]	BCG法 [和光純薬工業株式会社]	特異性の高い試薬へ変更	
002	アルブミン/グロブリン比（A/G比）	検査方法	BCP改良法/ビューレット法	BCG法/ビューレット法	アルブミンの変更に伴う変更	
034	コリンエステラーゼ（ChE）	検査方法	JSCC標準化対応法 [和光純薬工業株式会社]	JSCC標準化対応法 [和光純薬工業株式会社]	改良試薬へ変更	36
349	浸透圧（血清）	基準値	275～290 mOsm/kgH ₂ O	280～300 mOsm/kg	臨床検査法提要 改訂第34版準拠	57
350	浸透圧（尿）	基準値	50～1300 mOsm/kgH ₂ O	M：392～1090 mOsm/kg F：307～1093 mOsm/kg		
2086	浸透圧（透析液）	単位	mOsm/kgH ₂ O	mOsm/kg	表記の適正化	
105	サイロキシン（T4）	報告上限値	24.86 μg/dL以上	上限値設定なし	試薬添付文書に準拠	66
106	トリヨードサイロニン（T3）	報告上限値	6.51 ng/mL以上	上限値設定なし	報告範囲の見直し	
274	遊離サイロキシン（FT4）	報告上限値	7.77 ng/dL以上	7.77 ng/dL	表記の適正化	
273	遊離トリヨードサイロニン（FT3）	報告上限値	32.55 pg/mL以上	32.55 pg/mL		
2430	クオンティフェロン（QFT）	検査機関 所要日数	ジャパンメディカル 3～7日	京浜予防医学研究所 3～15日	外部委託へ移行	154

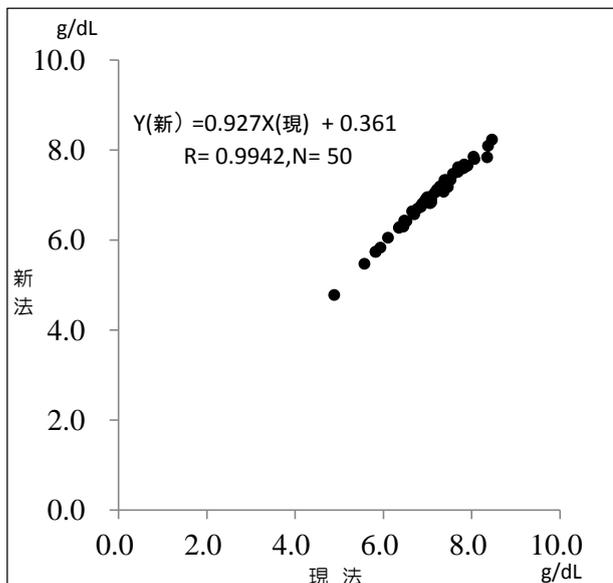
実施日 平成 28年3月31日（木）受付分より

項目コード	項目名	変更箇所	新	現	備考	検査案内記載頁
515	成長ホルモン（GH）	項目コード	2670	515	測定試薬の変更に伴い、メーカー推奨の基準値へ変更	65
		検査方法	ECLIA法	CLEIA法		
		基準値	M：2.47 ng/mL以下 F：0.13~9.88 ng/mL	M：0.97 ng/mL以下 F：3.61 ng/mL以下		
303	サイロキシン結合蛋白（TBG）	所要日数	3~8日	3~6日	アッセイスケジュールの見直し	66
256	カルシトニン（CT）	項目コード	2669	256	測定試薬の販売中止	68
		検査方法	ECLIA法	RIA法		
		検体量	血清 0.5 mL	血清 0.4 mL		
		基準値	M：5.15 pg/mL以下 F：3.91 pg/mL以下	別掲参照		
		所要日数	4~6日	5~10日		

実施日 平成 28年3月30日（水）受付分より

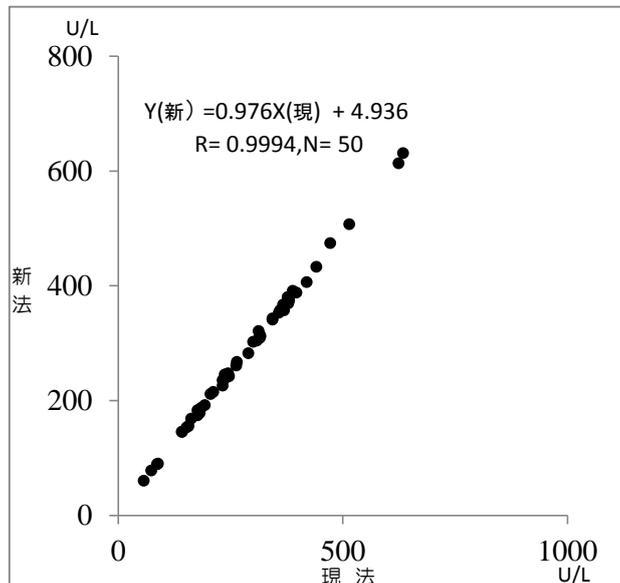
項目コード	項目名	変更箇所	新	現	備考	検査案内記載頁
—	総エストロジェン（非妊婦）	所要日数	10~24日	10~18日	所要日数見直しに伴う変更	75

● 総蛋白（TP）現法と新法の比較



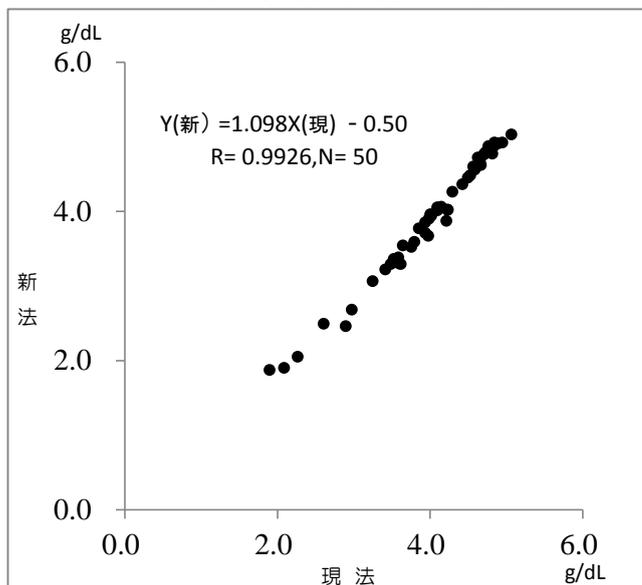
(自社検討資料)

● コリンエステラーゼ（ChE）現法と新法の比較



(自社検討資料)

●アルブミン（Alb）現法と新法の比較



(自社検討資料)

●《ご参考》アルブミン測定値の判読時の留意点

現法のBCG法はグロブリンとも反応し、特に急性相反応物質との反応性が強いという問題点がありました。新法のBCP改良法はそれらの問題点を改善し、アルブミンに対する特異度が高くなっています。

アルブミンが低下する病態ではBCG法とBCP改良法での測定値の間に乖離が認められます。

つきましては、各病態の判断値における換算方法について日本臨床検査医学会から下記のような提言がされております。

※ 血清アルブミン測定値についての提言書—BCG法とBCP改良法による測定値の差の取り扱い方—

BCG法とBCP改良法の測定値を確実に換算することは不可能である。よって、**BCP改良法のアルブミン測定値が3.5 g/dL以下の場合、一律にBCP改良法による測定値に0.3 g/dLを加えた値をBCG法での推測値と近似するのが妥当である。** 各種の診断基準などで使用されている病態識別値が3.5 g/dL以下であるため、病態識別値の換算への使用に限ることとする。

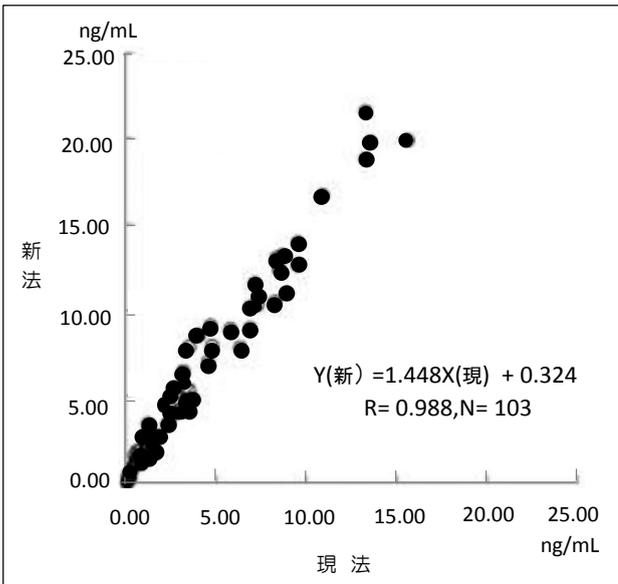
●病態識別値について

		診断基準などにおける判断値 (g/dL)			
BCG法		2.5	2.8	3.0	3.5
BCP改良法		2.2	2.5	2.7	3.2
肝硬変 (Child-Pugh分類)					
ネフローゼ症候群					
栄養状態の識別	CONUT値				
	GPS				
	三木分類				
アルブミン製剤の効果の評価	急性の場合				
	慢性の場合				

【参考文献】

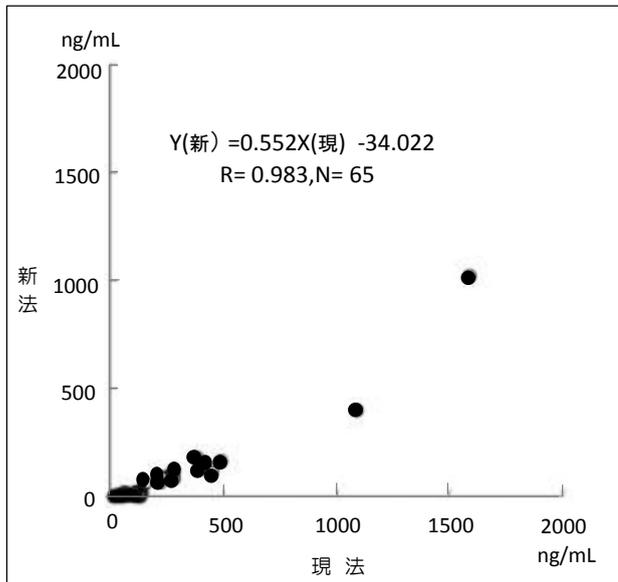
- 1) 血清アルブミン測定値についての提言書 (BCG法とBCP改良法による測定値の差の取り扱い方) : 日本臨床検査医学会
血清アルブミン定量値ワーキンググループ : 臨床病理62(1) : 5-9, 2014.
- 2) 前川 真人 : 医学のあゆみ251(2) : 182~183, 2014.

●成長ホルモン（GH）現法と新法の比較



(委託先検討資料)

●カルシトニン（CT）現法と新法の比較



(委託先検討資料)

〈現法〉カルシトニン基準値 (単位: pg/mL)

年齢	男性	女性
20~29	34.4~89.2	29.4~68.6
30~49	30.9~120.1	17.1~58.7
50~69	16.6~95.4	21.6~54.0
70~90	26.2~49.0	17.0~55.8